



5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 120 1 2 3 4



六、惟目果地終は三道への業ありしなり。あ七
部、書の一あり。昨ハ三別の人性ハ種族氏ハ種
本年がしてあるの幕下より居し忠功なり。是
ありといふも人生の字違へて佛心なり。此
へずあぐ名利の病と云ふもよく云ふなり。あ八
實際の理と云ふも大忍忍道雲居の明昨ハ
遠風漢より依て万庵をあらわす。くその軌則
ありしなり。昨ハ三別の人性ハ種族氏ハ種
一冊の書なり。只全對終一書と云ふ。昨ハ三別
ありしなり。あ九、終文諸録の玄奥と諸問と云ふ
変授とあり。言下よりありしなり。そ化導守此男女

新しう寸つ井も明暦元年し未六月廿六日由れ冠
 竜蛇とて遷化とる行年七十七歳臘二十六
 年也交生の大親も依く七部ノ書とほはるも
 中より書ハ読誦多じさりのとあつめく未世
 ノ宿生とすう人づゑにうさうとて然らむ
 不也いふも倅より流れて世にゆゑふも世に
 云余

因果物語第一目録

- 一 魂ふくさ女の地へ着こるも
- 二 隣地流る女死して溪のやけこるも
- 三 伊勢の村家利をるも
- 四 援と来文と新地へ寄附あつて
- 五 志ゆ（地）もあてまといふも
- 六 るとこりてるうつれも
- 七 江戸のふふ茶いるも
- 八 妾と堀てまゝ然るのけけの女屋に
- 九 生得の功力ふくも
- 十 庭多うつてゐてゐる（年）に
- 十一 赤子のまゝとておぼるも

十二 母のそとにばらばらに乳とのまをいへば
 十三 維の然人よつこいふ
 十四 親をなむつ子よ代になむにわ
 十五 亡きとありていふに
 十六 夫の亡きまの病と療ほ
 十七 母のふとまのふとまといふ

周果見終末一

西とる人圖書

一

概をうていふの地は東とるま

後河國府中は國司概をうていふの地は東とるま
 外て通ぬるあいづにわふまふとくといひて
 子にくちりきりぐらてのらとふぐら家の
 心へゆりけるがらまのうていふまふとく
 通とすうまありやう人けむにむとすや
 まれまふまふまふまふまふまふまふ
 でありいふといふまふまふまふまふ
 けまふまふまふまふまふまふまふ
 いふといふまふまふまふまふまふ
 子にくちりきりぐらてのらとふぐら家の

このねりふくさ



二

憐れむとて母を以て懐のてまといふ
 東と西のえりてをさすふか村をさす
 ちみふとて賑はありとて母のあふとて
 さあよきとていふやうにやうに
 いけて死なれりけりてうづとていふ
 かたきとてのつらとていふとていふ
 おなりとて賑はのふとていふとていふ
 てやきとていふとていふとていふ
 うとていふとていふとていふ
 あかきとていふとていふとていふ
 ちみふとて賑はのふとていふとていふ
 ちの牛とていふとていふとていふ



もさるやそとれりうがてちふやうすうあつこ
ろがうらこころはとてさうさうさうさうさう
おくもあはけ入てさうさうさうさうさうさう
ふさうさうさうさうさうさうさうさうさう
のさうさうさうさうさうさうさうさうさう
死よりさうさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさう

七 江戸のうさうさう

いふてあはれさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
このさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

[illegible][illegible]

うゝ事い にはい念りいふうやうといけい
あり寛永十七年の事もがう極人さきさるね
死々ねえま様ううりさういふく唐澤とらひ
念あてやまひいふてうーいふ唐澤とらひ

十

唐澤とらひとてうーいふ唐澤とらひ

わあが納のふさきううーいふ唐澤とらひ
てまにやういふまう十目うりのねよ。兎年をま
とらふ人のさういふ唐澤とらひていふうーい
さるやういふいふいふいふいふいふいふ
ていふいふいふいふいふいふいふいふ
十目うりのねよ。兎年をま
これうーいふいふいふいふいふいふいふ

うらうの料理ますうーいふいふいふいふ
方ぬいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
もさる事ふいふいふいふいふいふ
うけあひいふいふいふいふいふいふ
う。うらういふいふいふいふいふ

土

赤子のさきさき生れ物とて

わあが納のふさきううーいふ唐澤とらひ
の毛ほさういふさきとての寛永十八年
ひあういふいふいふいふいふいふ
あり幸田とら村わり。はあういふいふいふ
いふ寛永十七年と月よ女子うーいふいふ

[illegible][illegible]

だもこのうしろのふゆびりまよりあつてかつけそり
 だも又二階へ寝るふゆ市といふついでにぬきこ
 へとやうだとは人あふまふさうく父の海を
 履くおつとだうあつてあつといふ母の精業との
 してととばうらひやくしてよきやうなわ
 ぶらりあをわく。と来り子の別づりうま
 おひを後うしろへうらひて二人のきもあつてさう
 わさてうやうぬきしてあつていつくううらさ
 貴こまつてせむれどくいしむとあつてさ
 まうなりいさる。寛永の末の年は戸鉄炮町
 へうまうり



いへりしきみ

因果物語巻二 目錄

- 一 姫てねき女主人の女房とありてある
- 二 人々金かゝる偏所にて早美せられし
- 三 金に執心して一て蛇と来りてある
- 四 ち屋敷とあるありて代にありてある
- 五 且ねの戸とあるありてあるねとある
- 六 女乃て奥とあると同音とある
- 七 怪食とあるありてあるにありてある
- 八 金と切たありてあるにありてある
- 九 青目死て福人の女とある
- 十 藝と養生の目とある
- 十一 師の房死てあるとある

- 十二 ありていふやうにわづらひていふやうに
 十三 念佛の持より仏像の山
 十四 今もまだいふやうにわづらひていふやうに
 十五 学問の傍よりいふやうにわづらひていふやうに
 十六 母の悲しみよりいふやうにわづらひていふやうに
 十七 仏像をわづらひていふやうにわづらひていふやうに
 十八 移りてわづらひていふやうにわづらひていふやうに
 十九 金と銀とをわづらひていふやうにわづらひていふやうに
 二十 人といふやうにわづらひていふやうにわづらひていふやうに
 廿一 蓮花の音よりいふやうにわづらひていふやうに
 廿二 佛の心よりいふやうにわづらひていふやうに
 廿三 代官よりいふやうにわづらひていふやうに

因果物語の二

一 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 二 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 三 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 四 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 五 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 六 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 七 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 八 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 九 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十一 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十二 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十三 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十四 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十五 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十六 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十七 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十八 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 十九 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 二十 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 廿一 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 廿二 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに
 廿三 婦人教へていふやうにわづらひていふやうに

とねてうづいさる。その日のうけに、うづいさる。のこる。あ
 まり。一五日。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 中後。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 ぼく。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 お。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 け。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。

又

あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 大洞。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 とも。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。
 ま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。うづいさる。あま。

あまのうづいさる



勢利 業々。弘明院といふ事。ちふなり。あり。げ。の
 修持。寛永十八年。一。死。ま。ひ。と。は。の。信。れ。未。果。夜
 一。に。あ。ま。り。眠。延。は。ち。こ。ま。つ。の。あ。る。と。あ。り。て
 有。る。ま。す。一。日。の。也。が。あ。果。と。う。く。一。れ。い。終。
 う。く。我。何。も。あ。り。又。一。こ。何。も。あ。り。終。り。う。あ。り。い
 い。ま。ふ。い。う。く。げ。ち。終。り。ま。あ。と。付。る。る。い。う。き。ゆ。子
 細。わ。ぶ。一。と。て。紙。と。や。づ。り。て。一。れ。い。ま。ま。子。あ。あ。り。ど
 な。り。ら。は。金。子。と。う。く。う。く。ま。あ。ひ。け。ま。は。ぞ。ね。り
 二。と。び。事。ど。弘明院の。甥。大。因。縁。を。師。う。て。は。り
 二十 人。と。う。む。ふ。女。が。一。と。あ。ま。ふ。成。こ。る。ま。す
 弘明院。わ。い。う。く。信。何。と。う。く。人。が。め。一。は。い。ひ。乃。下。卒。八
 九。業。の。と。う。く。信。ま。ま。事。あ。一。と。う。の。あ。る。と。あ。り。い。ひ。る

は。あ。あ。は。あ。ん。ら。う。び。う。い。付。て。せ。じ。べ。一。の。
 あり。う。つ。も。あ。り。あ。り。か。の。女。あ。あ。う。い。う。い。う。い。う。い。う。
 つ。あ。り。た。う。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。
 わ。う。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。
 と。と。あ。の。め。と。う。い。う。て。用。心。と。ね。た。が。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 せ。え。た。や。ま。い。も。ふ。り。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 地。づ。の。兄。と。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 一。と。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 又。あ。り。て。せ。え。た。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。
 は。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。
 と。と。だ。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。い。う。

止 蓮院の菩提寺にて大母のふにせりし年
の依り海をわたりてふりてあり。寛文十九
年。はの九月廿二日に死せられり。年七十九
と云ふて蓮院の菩提寺にてふりてあり。當
寺とて建てる。死して沈の年。西國にてふり
万石。ふた名のふりてあり。中よりある
名をふりてあり。死してふりてあり。死してふり
て。ふりてあり。死してふりてあり。死してふり
依りてあり。死してふりてあり。死してふり
て。ふりてあり。死してふりてあり。死してふり

止 蓮院の菩提寺にて大母のふにせりし年

の依り海をわたりてふりてあり。寛文十九

年。はの九月廿二日に死せられり。年七十九
と云ふて蓮院の菩提寺にてふりてあり。當
寺とて建てる。死して沈の年。西國にてふり
万石。ふた名のふりてあり。中よりある
名をふりてあり。死してふりてあり。死してふり
て。ふりてあり。死してふりてあり。死してふり
依りてあり。死してふりてあり。死してふり
て。ふりてあり。死してふりてあり。死してふり



